日本社会病理学会ニュース

８８号

2019 年 8 月 1 日

発　行：日本社会病理学会
事務局：〒607-8175　京都市山科区大宅山田町 34
京都橘大学
TEL 075-574-4224　FAX 075-574-4122
URL http://socproblem.sakura.ne.jp
e-mail：sakuta@bukkyo-u.ac.jp
郵便振替口座：00170-4-56341
編集責任者：麦倉哲（庶務理事）

【目次】

１．　大会開催校からのあいさつ　2
２．　第 35 回日本社会病理学会大会のお知らせ　.....　2
３．　編集委員会からのお知らせ　.....　5
４．　渉外・広報委員会からのお知らせ　.....　5
５．　2019 年度第 1 回理事会報告（議事抄録）　.....　7
６．　会員コーナーⅠ（リレーメッセージ第２期学会創生期を知る人から）　.....　8
７．　会員コーナーⅡ（近況報告）　.....　9
８．　会員の新刊書の紹介コーナー　.....　10
９．　会員異動　.....　10
10.　事務局より　.....　10
11.　選挙管理委員会　.....　11
12.　前回発行ニュースレターにおける掲載漏れ　11
13.　研究助成のお知らせ　13

重要事項

１．第 35 回大会は９月 28 日（土）～29 日（日）に流通経済大学にて、開催される予定です。
２．2017 年度より、学会ニュースは年２回（８月・１月）の発行となっています。

１　大会開催校からのあいさつ

歓迎の言葉

日本社会病理学会第 35 回大会を 2019 年 9 月 28 日、29 日の日程で、流通経済大学・新松戸キャンパスで開催させていただくことになりました。

日本社会病理学会は、その成立時期から研究上の関心として、社会病理や社会問題といった現象を生み出す現代社会とはどのような社会なのか。また、そうした問題現象をいかに解決し予防するのかといった社会的な要請の二つに関心があるとされてきました。こうした研究上の関心は 30 年以上経った今日でもそれらは変わることはないと思われますし、我々研究者はこうした研究上の関心を絶えず持ち続け現代社会の諸問題に挑んでいく必要があると思います。今回の大会においてもさまざまな問題領域に関して会員の皆様の研究に対する熱意と努力のもと、活発な議論が展開されることを期待しています。

ところで流通経済大学は、2015 年に創立 50 周年を迎えることができました。1965 年に経済学部経済学科のみの単科大学として茨城県龍ケ崎市に創設された本学も、現在では龍ケ崎、新松戸（千葉県）の２キャンパス、5 学部 9 学科、５つの大学院研究科（修士課程、博士課程）を擁する社会科学系を中心とする中規模総合大学に成長することができました。特に、大会の会場になる新松戸キャンパスは、地下鉄千代田線「新松戸駅」から数分と地の利がよく、また隣接して大型ショッピングセンターがあり非常に便利な場所にあります。また、新松戸キャンパスには、１号館と２号館と二つのキャンパスがあり、ラーニング・コモンズやアクティブ・ラーニング教室、さらには全館での無線 LAN 使用可能など最新の設備も整っております。こうした施設を利用していただき大会が円滑に進んでいくようスタッフ一同努めていきます。多くの会員の皆様が参加していただけることを願って、歓迎の挨拶とさせていただきます。

流通経済大学　大橋純一

２　第 35 回日本社会病理学会大会のお知らせ

2018 年度、関西学院大学大会は 2 日目が台風のために中止となりました。何よりも安全が第一です。シンポジウムが開催できずに残念な思いをして帰路につくこととなりましたが、『現代の社会病理』誌上シンポジウムとして内容をご覧いただけることとなっています。

2017 年度からの今期研究委員会では一連の流れをつくりシンポジウムとラウンドテーブルを開催しています。社会病理研究と学会の活性化に向けて努力をしています。今期理事会での最後の大会となるので、少し経過も振り返りながら今年度の学会の概要を紹介します。

今年の自由報告部会は 10 人の会員から多様なテーマで報告が予定されています。さらに、会長も務めた佐々木嬉代三先生がご逝去されたことの追悼の意味も込めて特別部会を開催します。テーマは「社会病理学者の職業倫理」です。

シンポジウム、ラウンドテーブル、自由報告部会、特別部会と多様な内容です。学会と社会病理学の活性化にむけて大いに議論する機会としていきましょう。

（１）2017 年度大会（國學院大学）の特徴

「社会病理・社会問題研究に期待されるもの―その拠点・舞台となる学会をめざして」を掲げてスタートした今期の研究委員会です。

この年のシンポジウムテーマは「『わたし』をひらくー生きることについての知を協働で編むことと社会問題研究」でした。ティーンズマザー（大川聡子さん）、暴力加害男性研究（尾崎俊也さん）、社会的養護の子ども（徳永祥子さん）、身近な社会問題との出会い直し（川端浩平さん）をテーマにした報告をお願いしました。「問題のなかを生きる当事者」や「調査する者の立ち位置」から劈開してみえてくることに焦点をあてました。

ラウンドテーブルは「社会病理研究・社会問題研究の可能性ー方法と対象の多様性をもとにして考える」をテーマにしました。社会病理学や社会問題論の方法論、分析手法、その工夫について焦点をあて社会病理・社会問題研究の今後を考えました。自死と社会病理研究、精神医学と依存症、生き辛さ等をもとにした報告でした。

2017 年度の大会は、犯罪系学会の協働による開催でした。合同大会としては治療的司法に関するシンポジウムが開催されました（中村正が登壇）。合同大会シンポジウム、本学会シンポジウムそしてラウンドテーブルと続けて、社会病理にかかわる臨床社会学的な話題設定を行いました。犯罪に焦点をあてるだけではない社会病理学研究の独自さが浮き彫りになりました。

（２）2018 年度大会（関西学院大学）の特徴

シンポジウムのテーマは「社会病理と『公共』の社会学」でした。社会問題の診断だけではなく、「処方」も構想することが社会病理学会の目的とされていることに焦点をあてました。「公共」あるいは「公私関係」「親密圏」への社会学的な関心の広がりがあり、「処方」について批判的に検討し、問題の解決について考えていく際に、「公共的なもの」とのかかわりでその「処方」を措定し直し、「問題の定義と解決」の共軛関係を吟味することは不可欠な作業だと考えたからです。それは社会病理の「解決」にむけた政策・制度をいかに組成していくのかという問いでもあります。社会病理・社会問題の「解決」にかかわる政策・制度論について、「公共」の社会学の視点からとらえ直す必要のある話題を選びました。具体的な課題としては、再犯防止・更生保護、加害者家族問題からみえてくること、フランスにおける社会的統合の実践、「公共」の名の下に実施されてきた優生政策とそれをささえる優生思想等の具体的問題に焦点をあてました。

ラウンドテーブルはひきつづき「社会病理・社会問題研究の可能性Ⅱ（社会的排除はいかに研究しうるか）」でした。これまでは十分に扱いきれなかった現象、名付けにくいもの、微細な日常的差別、不可視化されているものを対象とした研究を報告していただきました。「『病気』と見なされにくい病にみる排除と希望」（野島さん）、「『関係ないよ』の意味するもの-部落出身者の『うちあけ』をめぐって」（齋藤さん）、「失踪の研究は何を意図しているのか」（中森さん）、「ヘイトの構図-マイクロアグレッション論」（金さん）でした。見えにくい社会病理の諸相が浮かび上がりました。

（３）2019 年度大会（流通経済大学）について

１）シンポジウムについて

2017 年度の「臨床と実践」、2018 年度の「公共と『処方』」を踏まえ、「社会的排除の諸相を確認しつつ、自らの生を立ち上げ直そうとする人びとの『実践・行動と展望』を見つめ直し、いかなる政策・制度化と記述・研究法を志向すべきか」について検討したいと考えています。テーマは、「社会的排除を乗り越える―地域の視点から」です。社会病理・社会問題の解決を展望するためにはそのための諸実践に学ぶことが重要です。とくに NPO 等の自主的な取り組みは制度化された解決方法とは異なる柔軟性をもっています。また、変化する課題に応じて社会の構造的な問題に応答しようとする先進性・先駆性もみえてき

ます。ひきこもりをはじめとする子ども若者支援、地域での生きづらさを抱える人びとへの多様な支援にかかわる方々の実践に学びます。また、障害学や社会病理学の知をもとにした排除と克服の両面から社会的現実をみつめてきた研究者からも報告をいただきます。排除に抗した共生は地域においてこそ現実的となることを焦点にして排除を乗り越えていく地平を拓いていきたいと考えます。社会病理への臨床社会学的な接近、公共社会学的な接近と続けてきた経緯も踏まえてそこに続くテーマ設定を考えています。またテーマの性格上、社会病理の課題解決にかかわる実践者も交えたクロストークの場になるようにとも考えています。以下の構成です。

〇報告者
谷口仁史さん（認定非営利活動法人 NPO スチューデント・サポート・フェイス／代表理事）ひきこもりをはじめとする子ども若者支援（非会員）
佐久間裕章さん（NPO 法人 自立支援センターふるさとの会／代表理事）山谷を基盤にした自立支援（非会員）
魁生由美子さん（愛媛大学）在日外国人の地域支援（会員）
中根成寿さん（京都府立大学）障害学の観点から地域における自立生活について（会員）
司会：中村正さん

２）ラウンドテーブルについて
　ひきつづき「社会病理・社会問題研究の可能性Ⅲ（社会的排除はいかに研究しうるか）」として組織します。これまでは十分に扱いきれなかった現象を社会病理・社会問題研究の対象として取り上げてきました。それを広義の社会的排除と位置づけ、方法的にも事例研究やフィールド研究のアプローチを中心に構造的なメカニズムを考察するという方向性を確認しました。
　2019 年度も議論を継続します。社会病理学研究の広がりの諸テーマの共通点について考察していきます。そしてこの方向性と犯罪や逸脱との関連性も視野に入れます。狭い意味での社会病理の対象設定だけでなく、加害−被害の関係、被害者なき逸脱、心理化された社会病理の諸相等を視野に置き、主流となっていない社会病理現象に着目することでみえてくるものを「現代社会論」として検討することができる可能性もあります。見えにくい社会的排除の諸相の研究を活発にすることで本学会の今後の方向性を模索したいと考えています。話題提供者は、ユニークな対象の切り取り方とそれを社会病理学研究として構成し、社会的排除研究のすそ野を広げる企画としました。

〇報告者
中谷勇哉さん（京都大学大学院）ネット右翼言説拡散の「回路」（会員）
西井開さん（立命館大学大学院）「非モテ」に見る周辺化された男性の排除とミソジニーについて（会員）
市川岳人さん（三重ダルク代表）薬物依存からの「回復」と当事者の向かう未来（非会員）
コーディネーター：佐藤哲彦さん

３）日程について
　9 月 28 日（１日目/土曜日）
　　10:30〜11:30　現理事会
　　11:30〜12:20　新理事会

12:00～　　受付開始
12:30～12:40　開会式
12:45～15:00　ラウンドテーブル
15:15～16:45　特別部会（「社会病理学者の職業倫理」）
16:50～17:50　総会
18:00～20:00　懇親会

9 月 29 日（2 日目/日曜日）

9:30～　　受付開始
10:00～12:30　自由報告部会Ⅰ・Ⅱ
13:30～16:30　シンポジウム
16:30～16:40　閉会式

（研究委員会　中村　正）

３　編集委員会からのお知らせ

現在、9 月の大会に間に合うように、機関誌『現代の社会病理』34 号の編集作業が進行中です。7 月から 9 月上旬にかけて、印刷所から校正等の連絡が入りますので、執筆の先生方ご協力よろしくお願いいたします。

（編集委員会 金子雅彦）

４　渉外・広報委員会からのお知らせ

2019 年度秋季の国内学会大会情報をご案内いたします。

◎日本犯罪社会学会第 46 回大会
日程：2019 年 10 月 19 日（土）・20 日（日）
場所　：淑徳大学　千葉キャンパス
（1）シンポジウム
テーマ：コミュニティと犯罪
コーディネーター・司会：野田陽子（淑徳大学）
シンポジスト：竹中祐二（北陸学院大学）、山本奈央（佛教大学）、原田豊（立正大学）、平井秀幸（四天王寺大学）
指定討論者　：島田貴仁（科学警察研究所）、高木大資（東京大学）、久保貴（東京福祉大学）
（2）テーマセッション
①テーマ：日本の死因究明制度について考える
コーディネーター：笹倉香奈（甲南大学）
②テーマ：ジェンダーの視点から見た刑務所
コーディネーター：矢野恵美（琉球大学）
③テーマ：特殊詐欺などの身近な犯罪から高齢者を守るには（仮題）
コーディネーター：齊藤知範（科学警察研究所）
④テーマ：若年者に対する施設内処遇の展望と課題
コーディネーター：武内謙治（九州大学）
⑤テーマ：矯正施設における社会復帰支援―多機関連携に向けて―
コーディネーター：仲野由佳理（日本大学）

⑥テーマ：刑務所を開いていく「語り」とは？
コーディネーター：森久智江（立命館大学）
⑦テーマ：受診者の薬物規制法違反への医療者等による対応
コーディネーター：平井愼二（独立行政法人国立病院機構下総精神医療センター）
⑧テーマ：国際的視点に立った刑事政策の実現―第 14 回国連犯罪防止会議（京都コングレス）の開催に向けて―
コーディネーター：山口直也（立命館大学）
⑨テーマ：犯罪者処遇への市民参加の現代的諸相
コーディネーター：高橋有紀（福島大学）
⑩テーマ：覚せい剤事犯者の社会復帰に向けた地域の役割―司法・処遇・支援の各視点から―
コーディネーター：矢作由美子（聖徳大学）
⑪テーマ：刑事政策学の復権Ⅴ―いかにすればポスト／ニーズを増やす／高めることができるか―
コーディネーター：松原英世（愛媛大学）
⑫テーマ：反復違法行為者に対する治療の義務付け
コーディネーター：尾田真言（NPO 法人アパリ）
⑬テーマ：非行からの「立ち直り」と就労支援を再考する―インタビュー調査に基づいて―
コーディネーター：岡邊健（京都大学）
　詳細につきましては学会ウェブサイト（http://hansha.daishodai.ac.jp/index.html）をご覧ください。
※本学会と日本犯罪社会学会は連携協力を進めているため、双方のニュースレターにおいて公開シンポジウムや年次大会などの情報を案内することになっております。

◎日本教育社会学会第 71 回大会
日程：2019 年 9 月 12 日（木）・13 日（金）　※一部各種会合等 9 月 11 日（水）
場所：大正大学
　詳細につきましては学会ウェブサイト（http://www.gakkai.ne.jp/jses/）をご覧ください。

◎日本社会福祉学会第 67 回秋季大会
日程：2019 年 9 月 21 日（土）・22 日（日）
場所　：大分大学　旦野原キャンパス
テーマ：共生社会の構築に向けて～自立と多様性の共存
　詳細につきましては大会ウェブサイト（http://www.jssw.jp/conf/67/）をご覧ください。

◎第 92 回日本社会学会大会
日程：2019 年 10 月 5 日（土）・6 日（日）
場所：東京女子大学
　詳細につきましては学会ウェブサイト（https://jss-sociology.org/）をご覧ください。

◎アジア太平洋社会学会(APSA)

日程：2019 年 8 月 29 日（木）～9 月 1 日（日）
場所：アメリカ合衆国・ワシントン DC

◎アメリカ犯罪学会
日程：2019 年 11 月 13 日（水）～16 日（土）
場所：アメリカ合衆国・サンフランシスコ

（渉外・広報委員会　田中智仁）

５　2019 年度第 1 回理事会報告（議事抄録）

１．日時：2019 年６月 22 日（土）14:00～16:00
２．場所：一般社団法人　青少年問題研究会　事務所
３．出欠：出席者 11 名（朝田佳尚、井上眞理子、金子雅彦、作田誠一郎、清水新二、高野和良、竹中祐二、田中智仁、中村正、麦倉哲、矢島正見）で定足数を満たした。他に、高原正興庶務委員、畠中宗一学術奨励賞選考委員が同席した。
４．議題
①第 34 回大会プログラムの件
中村研究委員長より、配付資料に基づいて次回大会のスケジュール等についての説明が行われた。
作田事務局長より、大橋純一大会実行委員長の作成した配付資料の代読がなされ、会場等についての説明が行われた。
②機関誌「現代の社会病理」第 34 号の編集の件
金子編集委員長より、配付資料に基づいて進行状況の確認がなされた。
また、機関誌の Web 公開に向けての協議が行われた。
③学術奨励賞の選考について
畠中宗一委員より、出版助成１件、出版奨励１件、研究奨励１件の応募それぞれについて、委員会での選考評が報告された。
委員からの報告内容に沿って、学術奨励の可否について理事会で議論がなされ、決議された。
④入会・退会希望者の承認の件
４名の入会申し込みと４名の退会希望を承認した。また、作田事務局長より、会費納入の催促の結果をふまえて、５年間長期未納の会員について報告があり、該当者４名を会員資格喪失による退会扱いとすることが承認された。
⑤その他
（１）国際学術基金の運用の件
井上理事より、配付資料に基づいて他学会の動向についての報告が行われ、本学会のとるべき方向性について、協議が行われた。
（２）第 36 回大会開催校の選定の件
西日本での開催を念頭に、候補について協議が行われた。
（３）アジア犯罪学会京都大会の学術委員推薦の件
田中渉外・広報担当理事より、配付資料に基づいて説明が行われ、日本犯罪社会学会から依頼があった本件について、本学会のとるべき方向性について、協議が行われた。
（４）日工組社会安全研究財団の広告掲載およびニュースレターの掲載の件
作田事務局長から説明が行われ、日工組社会安全研究財団から大会報告要旨集および機

関誌への広告提供を受けることが決議された。

５．報告

①竹中庶務理事より、今後の事務局運営について、Web サイトの管理について、理事選挙実施とそれに付随する諸業務について、という３点について、資料に基づいて説明が行われた。

②麦倉理事より、NL 編集計画と作業進捗状況について、資料に基づいて説明が行われた。

（庶務理事　竹中祐二）

6　会員コーナーⅠ（リレーメッセージ第２期　学会創生期を知る人から）

「大橋薫の近況報告」

横山實先生からのリレーメッセージのバトンを引き継いだのが私、大橋純一(現流通経済大学社会学部教授)で、学会創設者の一人である大橋薫の息子です。横山實先生が私をバトンパスの相手として指名されたのには家族の視点から学会創生期の事情を語ってくれるものと期待されてのことかと思われます。しかしながら、当時の私はまだ大学院生の身分で、また研究領域も地域福祉論ということもあり学会とは距離がありました。よって横山先生の期待、また学会のリレーメッセージに十分に応えることはできないと思いますが、大橋薫の現役引退後についてお話することによってそれに代えさせて頂きます。

前回のリレーメッセージの中で横山實先生は学会創立時において「家族総出で学会の事務を行っていた」と述べられていましたが、確かに当時は会員名簿作成等の事務仕事の一部は母の定代が、また学会創立時の会場設営関係は私が、とういうようにそれぞれ担当して設立準備にあたっていました。余談ですが、この「家族総出」と言う言葉の意味には、父の調査研究の裏方には、常に母の存在があることを忘れられません。特に、まだ PC による集計作業ができない 1960 年代の父親の調査研究の集計には、母親が手集計でやっていたのを子供ながら覚えています。

明治学院大学を退職した後は聖徳大学において人文学部の創設に向けての準備とその成長を見届け、2003 年 3 月（80 歳、非常勤含む）に完全に第一線を退きました。

80 歳代前半の父は、目黒の自宅で私どもの家族と過ごす日々が続いておりました。朝と夕方の散歩は日課となっておりました。日中の大半は自分の部屋で新聞や書物を読んでいました。口癖は「まだまだやる仕事が一杯ある。」で、その意味するところは自分のこれまでの研究をまとめることでした。この頃は認知機能も十分ありました。80 歳代後半になってくると身体的にかなり衰え、かつ認知機能が弱まってくると、散歩に出ても自力で帰宅するのが困難になりパトカーのお世話になることも数回出てきました。父の難聴もひどくなりほとんど聞こえない状態で、母からの問にも答えられませんでした。他方、母も認知症が現れ父に対する行動も荒れてきました。この時期は私どもの家族も独立し目黒の自宅には夫婦のみの生活になり、私が週数回訪問し生活を支援していました。テレビニュースを見ながら、「これからの日本は大変だ。」が新たな口癖として出てきました。その意味するところは不明でした。

90 歳代に入ると父はほとんど散歩には出かけなくなり、机に向かうかソファーに座ってテレビニュースを見る毎日になってきました。母は私どもが行くたびに「泥棒に入られた。財布がない。」と言い、台所ではヤカンや鍋が黒焦げになっていました。いよいよ老夫婦二人だけの生活は困難と判断し、父 93 歳、母 85 歳の 2015 年 10 月に龍ケ崎市内の私の自宅の側のアパートに呼び寄せ、在宅サービスを利用しながら私どもが介護する新たな局面に入りました。ここでも「まだまだやる仕事がある。」といって、新聞記事を切り抜き机

に向かう毎日が続いていました。ここでのアパート生活は約1年半で、終了しました。父のトイレ問題が出てきて母がパニックを起こす状況がでてきたからでした。そこで、2017年4月からは市内のグループホームに夫婦で入居することになりました。足腰がかなり衰えほとんど自立することはできず、車椅子生活を送っています。昨年、学文社の田中千津子代表がホームに来られましたが、あれほどお世話になっていた方なのに、二人とも覚えておりませんでした。

グループホームでの父の生活は車椅子に座ってテレビニュースを見る毎日ですが、相変わらず「これからの日本は大変だ」とつぶやいています。未だにこのつぶやきがでるのには、社会病理学が持つ研究上の関心事、すなわち現代社会の解明とそれへの社会的要請が脳裏に色濃く焼き付いているものと思われます。いくつにもなっても現代社会への関心を持ち続けているようです。父97歳、母89歳、ともに100歳を目指しています。

（流通経済大学社会学部　大橋純一）

7　会員コーナーⅡ（近況報告）

●全炳昊（佛教大学・非常勤講師）

（1）最近の研究テーマ・関心事

担当している調査研究演習の主なテーマである「地域社会と若者」において、大学の意味と大学生の役割に注目しながら学生指導を行なっています。PBL やアクティブラーニングの導入と実践が実質的な教育効果としてどのように結びついているのか、実証研究とともに韓国の産学協力事業との比較研究を試みています。個人的な研究課題としては、在日コリアンをはじめとする在日外国人の若者たちの非行や犯罪の実態と社会的支援の現状に関する基礎資料の収集とともに追跡調査など、質的研究の枠組みを構築するために努力しています。

（2）著書・論文など

2015「韓国大学生の自己観念と規範意識」『現代の社会病理』30号、日本社会病理学会、pp. 69-85

2017「韓国における少年の法定年齢と少年法の課題」『子どもの法定年齢の比較法研究』山口直也（編著）、成文堂

2019 共著「産学協力事業の展開と大学の役割-韓国の産学協力事業の歴史と展開を踏まえて-」『佛教大学総合研究所紀要』26号

●堤圭史郎（福岡県立大学）

（1）最近の研究テーマ・関心事

生活困窮者自立支援制度に基づく「排除と差別」に抗する地域社会の可能性を探るべく調査研究を進めています。このような関心から、近年は都心コミュニティの動態的把握や、サスティナブルな地域生活文化圏を形成してきた農村地域のフィールドワークなども進めてきました。自分が「何屋」かわからなくなる時もございましたが、最近ふとしたきっかけで修士課程の頃に研究していた「施設コンフリクト」に関する事例研究を進めることができ、これらの研究のつながりが、朧気ながらようやく見えつつあるところです。

（2）著書・論文等

2019「『都心回帰』する大阪の貧困」鯵坂学・西村雄郎・丸山真央・徳田剛編著『さまよえる大都市・大阪-「都市回帰」とコミュニティ』東信堂：263-278.

2018　鯵坂学・上野淳子・丸山真央・加藤泰子・堤圭史郎　・田中志敬「『都心回帰』による大都市のマンション住民と地域生活-京都市中京区と大阪市中央区のマンション住民調査よ

り」『評論・社会科学』124: 1-105.

●都島　梨紗（岡山県立大学）

(1) 最近の研究テーマ・関心ごと

非行少年の「立ち直り」をテーマに研究を進めてきました。2017 年にひとつの区切りとして博士論文を書き上げ、無事受理されました。これまでの研究では男性の少年院出院者に調査を行ってきましたが、現在は女性の少年院出院者や既存の「就労自立」の在り方に縛られない少年院出院者の調査を行っています。既存の非行研究や立ち直り研究の見直しを進めているところです。

(2) 著書・論文等

2017 年　都島梨紗　「更生保護施設におけるスティグマと『立ち直り』―ある非行経験者のスティグマ対処行動に関する語りに着目して―」『犯罪社会学研究』第 42 集（pp. 155-170）

2017 年　都島梨紗　『非行少年の「立ち直り」に関する社会学的研究―少年院・保護観察所の実践と非行経験者の語りに関する分析―』名古屋大学教育発達科学研究科（博士学位論文）

８　会員の新刊書の紹介コーナー

朝田佳尚『監視カメラと閉鎖する共同体』慶応義塾大学出版会、2019 年、4320 円
小関慶太編著『こども・先生のための法学入門』三和出版社、2019 年、1950 円+税
矢島正見、岡本吉生、山本功編著『平成の青少年問題』一般財団法人青少年問題研究会発行、2019 年 11 月発行予定、3000 円（消費税・送料込み、予約直売）

９　会員異動

入会者　吉武理大、金本佑太、井上智史、盛田賢介
退会者　岩瀬久子、山村直子、高尾公矢、安高真弓
資格喪失者　入江良英、梅田直美、藤井友紀、三野宏冶

10　事務局より

１．過去の「大会プログラム・要旨集」の収集について

事務局では、保管用と今後の学会ウェブサイトへの掲載のために、現在手元にない以下の「大会プログラム・要旨集」のバックナンバーを探しています。会員の皆様の中で、下記の「大会プログラム・要旨集」をお持ちの方は、ぜひ事務局にお知らせ下さい。寄付あるいは一時的な貸与をお願いします。貸与していただいた場合は、複写した後にご返送させていただきます。

・1985～1988 年（第 1～4 回大会）

２．会費のお支払いについて

2019 年度の会費の支払い用に同封の振込用紙をご使用下さい。また、2018 年度以前の会費を未納の方も同封の振込用紙をご使用下さい。会費のお支払いの際は以下の諸点にご注意下さい。

(1)会費は 7,000 円です。ただし、「大学院に在籍する者の会費は、当該会員の申請により、理事会の定めるところによる」(会則第 19 条 2)という規定にもとづき、大学院生の会費は 5,000 円として本人の申請によります。大学院に在籍する会員は、振込用紙の通信欄に、在籍する 1 大学院研究科の名称、2 課程、3 学年、を明記して申請して下さい。なお、申請は毎年度行って下さい。この記載がなく 5,000 円が振り込まれた場合は、2,000 円不足として処理します。

(2)会則第 19 条 1 には、たとえば外国籍会員の経済事情等の特別の事情がある場合、理事会の議を経て会費を減免できるという規定があります。減免を希望する会員は、減免を申請する旨とその理由を簡単に記した書面を事務局までお送り下さい。理事会で申請が認められると、会費が機関誌代だけに減免されます。理事会の審議の結果は事務局よりお知らせします。

(3) 2011 年度から終身会員の制度が定められました。日本社会病理学会の通常会員歴が 15 年以上で 65 歳以上の方が対象となります。終身会費として 5,000 円の納入で、会員資格を継続することができます(ただし、機関誌 1,500 円は実費購入)。終身会員を希望される会員は学会事務局に所定の申請文書を提出して、理事会の承認を得る必要があります。

(4)会費を所属機関から直接お支払いいただく場合は、必ず会員の個人名を付記して下さるようお願いします。個人名の記載がない場合、入金の処理ができないことがあります。

３．所属・住所の変更について

所属・住所などが変更になりましたら、必ず書面(はがき・ファックス・E-mail 可)にて事務局までお知らせ下さい。

４．入会申し込みについて

事務局では常時、入会の申し込みを受け付けています。学会ホームページ(http://socproblem.sakura.ne.jp)からダウンロードできます。なお、身近に推薦者がいない場合は事務局にご相談下さい。

(事務局　高原正興)

11　選挙管理委員会より

2019 年度理事選挙の投票締め切りは、8 月 20 日（火）必着となっております。
会員の皆様におかれましては、ご協力のほど、何卒よろしくお願い致します。

(選挙管理委員 中森弘樹)

12　前回発行ニュースレターにおける掲載漏れ

ニュースレター87 号において、日本社会病理学会２０１９(平成３１)年度経常会計予算と選挙会計特別会計予算書が掲載されていませんでした。これは庶務理事・ニュースレター編集担当麦倉のミスによるもので、会員の皆様にはここに深くお詫びするとともに、本号にて掲載いたします。

２０１９(平成３１)年度経常会計予算

（２０１９(平成３１)年４月１日～２０２０(平成３２)年３月３１日）

収入の部

費　目	(2018 年度予算)	予　算　額	備　考
前年度繰越金	5,305,094	5,087,694	
会費収入	115,000	1,075,000	予算内訳　7000×150＋5000×5
機関誌売上	52,500	49,500	1500×33 冊
寄付・広告代	10,000	10,000	
預貯金利息	100	30	
計	6,517,694	6,222,224	

支出の部

費　目	(2018 年度予算)	予　算　額	備　考
機関誌作成費	350,000	350,000	現代の社会病理 34 号作成費
印刷費	160,000	160,000	プログラム、ニュースレター 報告要旨、封筒印刷費等
通信・郵送費	200,000	180,000	ニュースレター郵送、機関誌送付等
会議会合費	10,000	10,000	
大会関係費	200,000	260,000	大会開催校補助（6 万） シンポジスト謝金・旅費等
旅費補助費	400,000	400,000	理事会等
選挙関係費	50,000	40,000	１万円の減額
事務人件費	40,000	40,000	事務アルバイト代等
雑費	40,000	40,000	事務用品、コピー等
予備費	0	0	
次年度繰越金	5,084,694	4,742,224	
計	6,517,694	6,222,224	

日本社会病理学会２０１９(平成３１)年度選挙関係特別会計予算(案)
(２０１９(平成３１)年４月１日～２０２０(平成３２)年３月３１日)

収入の部

費　目	予　算　額	備　考
選挙関係積立金		
2018 年度繰越金	199,599	
2018 年度積立金	40,000	1 万円の減額
計	239,599	

支出の部

費　目	予　算　額	備　考
通信費	40,000	
人件費	30,000	
会員名簿印刷費	80,000	
事務費	5,000	
会議会合費	5,000	
雑費	5,000	
予備費	0	
次年度繰越金	104,599	
計	239,599	

13　研究助成のお知らせ

日工組社会安全研究財団 2020 年度研究助成
＜募集期間＞2019 年 11 月 1 日（金）～2019 年 11 月 30 日（土）
＜助成対象分野＞
　少年非行防止対策、子ども・少年・女性・高齢者を対象とする犯罪等の防止対策、組織犯罪対策、薬物銃器犯罪対策、犯罪の国際化への対策、犯罪被害者支援対策、マイノリティ・マジョリティの安全安心な共生のための対策等、社会安全問題に関する社会科学の研究を主として助成の対象といたします。
◆一般研究助成（個人又はグループによる研究）　１件当たりの助成額は 300 万円を上限とする。
◆若手研究助成（40 歳以下の個人研究）　１件当たりの助成額は 100 万円を上限とする。
2020 年度の募集に関する詳細、助成件数・採択研究課題等過去の実績は、当財団ウェブサイトをご覧ください。日工組社会安全研究財団ウェブサイト：
http://www.syaanken.or.jp/

2018 年 8 月 24 日

殿

日本社会病理学会
会長　　清水　新二
（公印省略）

学会　出席・発表のための出張扱いについて（ご依頼）

日本社会病理学会では、来たる 9 月 29 日（土）・30 日（日）に、関西学院大学（兵庫県西宮市）において、日本社会病理学会第 34 回大会を開催いたします。

つきましては、本大会に出席・発表する下記会員について、出張扱いその他のご便宜をお取り計らいくださいますようお願いいたします。

記

１．氏　　名

２．所　　属

３．発表題目

＊公印が必要な会員におかれましては、事務局までご連絡下さい。